



〈プロフィール〉
矢口和美さん
結婚を機に那須烏山市に移住
50歳
NPO法人「野うさぎくらぶ」
理事長

子育て環境は大切

皆さんは、子供たちの遊ぶ場所がないと感じたことがあるだろうか？ 那須烏山市にはそんな悩みを持っていた5人のお母さん達が始めた「野うさぎくらぶ」という放課後児童クラブがある。平成16年に高根沢町の子育て支援センターの協力を受けながら、自主サークルとしてスタート。平成19年に利用者は1,600人となり、平成21年には非常営利組織として法人設立した。現在、20歳代から70歳代の指導員30名、会員10名が所属する。

子供の成長は環境の影響を受けるため、夫や家族で整えてあげることが大切だ。しかし、子育ては誰もが初めての挑戦で、悩みは尽きることがない。そういう時に頼れる場所があることを知っていて欲しいと熱く語る。理事長の矢口和美さんは、「自分の子供は自分で育てたほうが後悔しない」と母から助言を受けていた。法人を設立しようとしていたタイミングで、烏山信用金庫から復職の打診があったが断り、この活動に専念することにした。

野うさぎくらぶでは経済的または精神的な悩みを抱える一人ひとりに向き合い、それを解決しながら、子供たちの育つ環境がより良くなる



▲ 学校で遊ぶ子供たち

よう応援している。年に2、3回、学童保育の保護者に、子供がどんな悩みを持ってきているか考える場を設けたり、季節ごとにおさがりの服を配ったり、多岐にわたる活動をしている。今後は、自然と触れ合えるフィールドワークなど、学童とは異なる経験ができる場をつくっていききたいという。

ひとり親支援事業「ひろから〜」

子育てに正解はなく、多くの人がおのずと自分が育った環境を手本としている。ただし、必ずしも自分自身と子供が全く同じ状況で育つわけではないので、夫婦や家族で協力していくことが大切である。では、身近に協力者がいない場合どうすれば良いのだろうか。

野うさぎくらぶはそんなひとり親のための支援「ひろから〜」を令和2年4月から新規事業

として始めた。一人では抱えきれない悩みや問題を受け止め、解決に向けてのバトン先と一緒に探すことを軸に据えている。ひとり親同士だからこそ共有できる気持ちがあり、家族でないからこそ打ち明けられることがあることも知っている。また、一人で悩みこまないように、家庭環境の相談も受けているそうだ。話を聞くことが解決の一步となることもある。多くの子供と接して培った、様々な視点から多角的に子育てを応援している。

地域の子育て協力

世界中で流行している新型コロナウイルスの影響は大きかった。子供の学校が休みでも仕事に行かなければいけない親から子供たちを預かっていたので、トイレットペーパーやマスク、消毒液が購入できなかった時は、預かった子供たちの手洗いやうがい徹底した。

現在の事務所に移る前は、ベンチャープラザ那須烏山に事務所を借りていたが、退去しなければならなくなった。新しい事務所を探していた時、今の事務所の大家さんが「南那須に戻ってきて仕事をしないか？」と声をかけてくれた。大家さん自身には小さな子供がいなかったが、活動の趣旨に賛同し、地域のことを考え、無償の予定で貸してくれることになった。共働きが多い現在、夫婦がともに手をたずさえて、どうすればより良い子育てができるのかを考えていかなければならない。そのためにも地域の協力は欠かすことができない。那須烏山市で子育てする家庭にとって野うさぎくらぶの存在は貴重だ。

担当 石井祐樹